

## オーディオ実験室収載

### EQ カーブ対応トーンコントロールの調整(9)(HP 収載)

#### —ThorensTD124 からの位相反転(2)—

##### 1. 始めに

前報(8)に引き続き、ThorensTD124 からの再生のトーンコントロールの調整と位相反転を検討します。

##### 2. トーンコントロールの調整方法

前報(7)は、次のような配線でした。

LINN LP-12→ZANDEN Model 120→Leak Point 1(ライン入力)  
→Brooklyn DAC+(ライン入力)→TruPhase

前報(8)は、次のような配線とします。

ThorensTD124→ZANDEN Model 120→Leak Point 1(ライン入力)  
→Brooklyn DAC+(ライン入力)→TruPhase

今回は、次のような配線とします。

ThorensTD124→My Sonic STAGE 1030→Leak Point 1(フォノ入力)  
→Brooklyn DAC+(ライン入力)→TruPhase

\* Leak Point 1 はトーンコントロール機能活用

\* Brooklyn DAC+は位相反転機能活用

使用するアナログ盤は、前報(5)と同じものです。レンジが広く倍音も豊かなピアノ曲と倍音が豊かなヴァイオリンとコントラバスのピチカートが入った曲を選んでみました。

ThorensTD124 には Magic Mat II を敷いておきます。

LONDON 360R 56009

モーツアルト ディベルティメント 17 番

ウイリー・ボスコフスキ指揮ウィーンモーツアルト合奏団

ドイツグラモフォン MG2366

ベートーヴェン ピアノソナタ 30 番

ウイルヘルム・ケンプ (ピアノ)

TRIO (ACharlin) PA1117

ベートーヴェン ピアノソナタ 30 番

エリック・ハイドシェックピアノ)

RCA M2S728

ショパン バラード G minor

## ウラジミール・ホロヴィツ（ピアノ）

### 3. トーンコントロールの調整結果

今回は、前報(7)の ZANDEN Model 120 で盤本来のイコライザ特性で聴いた記憶を元に、Leak Point 1 のトーンコントロールと Brooklyn DAC+の位相反転でどれだけ盤本来のイコライザ特性のような再生に近づくか調べることです。

今回の条件では、カートリッジの出力や Leak Point 1 のゲイン不足があり、TruPhase や Brooklyn DAC+のウォリュームと 300B アンプの入力感度を調整します。

ボスコフスキ一盤は、DECCA、R、第 4 時定数 High ですので、ZANDEN Model 120 での条件の記憶を頼りに Leak Point 1 でトーンコントロールを調整し、かつ Brooklyn DAC+で位相反転します。Leak Point 1 のトーンコントロールは中心位置、Brooklyn DAC+で位相反転なしですと、捉えどころのない音ですが、トーンコントロール調整を Bass は 3 時、Treble を 3 時としますと、高音から低音まで音像がくっきりとたち、併せて Brooklyn DAC+で位相反転しますと、バランスよく、音像も明瞭で、定位もしっかりと ZANDEN Model 120 でイコライザ特性を合わせたときの音に近づいてきます。

ケンプ盤は、TELDEC、R、第 4 時定数 Mid ですので ZANDEN Model 120 での条件の記憶を頼りに Leak Point 1 でトーンコントロールを調整し、かつ Brooklyn DAC+で位相反転します。Leak Point 1 のトーンコントロールは中心位置、Brooklyn DAC+で位相反転なしですと、焦点がさだまらず、高音から低音までぼけた音ですが、トーンコントロール調整の Bass を 1 時に Treble を 3 時としますと、高音から低音まで音にメリハリがでてきて、併せて Brooklyn DAC+で位相反転しますと、アタック感が向上し、音の焦点があつて ZANDEN Model 120 でイコライザ特性を合わせたときの音に近づいてきます。

ハイドシェック盤は、EMI、R、第 4 時定数 Low ですので、ZANDEN Model 120 での条件の記憶を頼りに Leak Point 1 でトーンコントロールを調整し、かつ Brooklyn DAC+で位相反転します。Leak Point 1 のトーンコントロールは中心位置、Brooklyn DAC+で位相反転なしですと、焦点の定まらない音ですが、トーンコントロール調整の Bass は 2 時、Treble を 3 時としますと、高音から低音まで音像が立ち、名張りがでできます。併せて Brooklyn DAC+で位相反転しますと、高音のアタック感、低音の量感と明晰さ、音の焦点が ZANDEN Model 120 でイコライザ特性を合わせたときの音に近づいてきます。

ホロヴィツ盤は、Columbia、R、第 4 時定数 Low ですので、ZANDEN Model 120 での条件の記憶を頼りに Leak Point 1 でトーンコントロールを調整し、かつ Brooklyn DAC+で位相反転します。Leak Point 1 のトーンコントロールは中心位

置、Brooklyn DAC+で位相反転なしですと、焦点の定まらない音ですが、トーンコントロール調整を Bass は 3 時、Treble を 3 時としますと、高音から低音まで音ぞがしっかりたち、併せて Brooklyn DAC+で位相反転しますと、アタック感や低音の明晰さ、定位などが ZANDEN Model 120 でイコライザー特性を合わせたときの音に近づきます。

以上から、Leak Point 1 のフォノ入力でもトーンコントロールの調整に加えて位相反転することにより、盤本来のイコライザー特性ではない RIAA の位相反転なしの場合でも盤本来のイコライザー特性の音質に近づくことが分りました。

#### 4. まとめ

Thorens TD124 からの Leak Point 1 のフォノ入力の再生において、フォノステージが ZANDEN Model 120 であった前報(2)と(3)と前報(5)などのトーンコントロールの調整結果を、Leak Point 1 のフォノ入力に応用し、併せて Brooklyn DAC+で位相反転することで、RIAA の位相反転なしの場合でも盤本来のイコライザー特性の音質に近づくことが分りました。

以上